

サークルの星!

キラッと光るサークルや
活躍する学生をクローズアップ!



鯨類研究サークル Balaena

イルカやクジラへの愛にあふれた 自由で幅広い研究活動

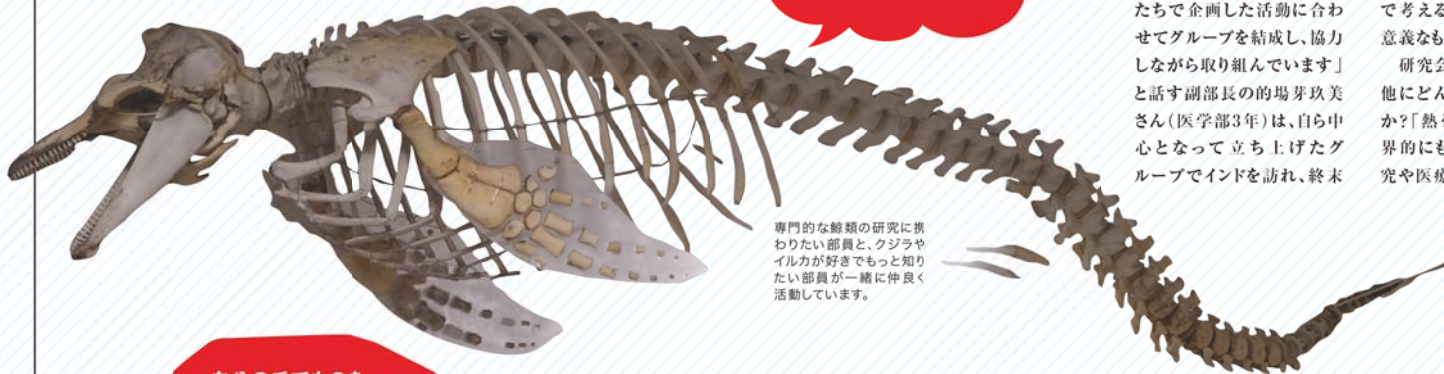
「もともと、水産学部の天野雅男教授の海棲哺乳類研究室の活動を1年～3年生の早い段階から経験したい学生によって結成されたサークルです」と語るのは代表の川上萌さん(水産学部3年)。時には研究室のメンバーに同

行して、大村湾のスナメリの目視調査に参加したり、イルカやクジラが漂着した際に大学での個体の処理や計測の補助をしたりすることもあるそうです。「調査を行うのに制限がある鯨類の研究は、実際に個体を見る経験がと

ても貴重です。私自身、クジラ類の研究をしたくて水産学部に入ったので、早くから高いレベルの経験ができてうれしいです」。こうした専門性の高い活動だけではなく、イルカやクジラの魅力を発信するようなもっと身近な活動もしているそうです。「水産学部による「鴻洋祭」ではクジラの骨格標本を飾ってクイズゲームをしたり、クジラの絵が描か

れたかるたで遊びながら種目や個性を学んだり。関心のあるテーマごとにグループで調査・発表をする勉強会もあります。みんなイルカやクジラが好きな学生同士なので、とても和気あいあいとしています」。

サークルのOBが
研究の一環で制作した、
スナメリの骨格標本!



専門的な鯨類の研究に携わりたい部員と、クジラやイルカが好きでもっと知りたい部員と一緒に仲良く活動しています。

自分の手でものを
作り出せる楽しさが
一番の魅力です!

機械ガール

女子学生ならではのチームワークで ものづくりの楽しさを伝える

工学部工学科の機械工学コースに在籍する女子学生が集まったサークル。男子学生が多い工学部の中で「リケジョ」同士の親睦を深める機会にもなっています。部長の衛藤紗千子さん(4年)の

お話です。「同じ学年に女子学生が少ないので、お互いに授業の内容を教え合ったり、研究室を選ぶ際にはサークルの先輩に相談したりしています。代表的な活動は、長崎市科学館で毎年行われる

熱帯医学研究会

海外に目を向けた学生たちが 主体的な活動で見識を深める

医学部の中でも、熱帯医学研究所の行う国際的な研究や医療活動に興味を持った学生が集まる研究会。早朝から先生を呼んで勉強会を行うなど、熱心な活動からは学生自身の目的意識と積極性が感じられます。「自分たちで企画した活動に合わせてグループを結成し、協力しながら取り組んでいます」と話す副部長の的場芽玖美さん(医学部3年)は、自ら中心となって立ち上げたグループでインドを訪れ、終末

期医療について研修を行ったそうです。「目的はマザーハウスでのボランティア参加でしたが、現地に向かう前に何度も勉強会を重ねてしっかり準備をしました。また、チームでの研修を通じて自分だけではなく複数の視点で考えることができ、より有意義なものとなりました」。

研究会に所属することで、他にどんな利点がありますか?「熱帯医学研究所は世界的にも有名で、現地で研究や医療活動に従事してい



日本だけではなく、
さまざまな国の医学生と
交流を深められます

フィリピンで行われた研修の合間に記念撮影。医学についてだけでなく、外国の文化について知る貴重な機会にもなっています。

る方から直接学んで研修できることが利点です。また、研究会が国際医学生連盟(IFMSA)の活動の一環である交換留学プログラムの

窓口となっており、海外の臨床現場で視野を広げるためのサポートが充実しているのも特徴です」。



各学期に一度行われる活動報告会で、自分たちの活動を他の学生たちと共有します。



交換留学プログラムを利用して、イスラエルの病院で研修を行った学生も。さまざまな国から医師が集まる環境で視野が広がったそうです。



「青少年のための科学の祭典」に出席して工作の楽しさを伝えることです。今年も引いて回すぶんぶんゴマを幼稚園から小学校低学年くらいの子どもたちと一緒に作りました」。

衛藤さんは以前から工学や機械の世界に興味があったのですか?「はい。高校では物理や数学が好きで、それを生かしたくて工学部を志

望しました。どの大学も工学部には女子学生が少なく不安だったのですが、長崎大学には機械ガールがあることを知って、それが入学の後押しにもなりました。それにさまざまな分野の研究を行っている女子学生とサークルを通して交流できるので、卒業後の就職や大学院への進学に関する相談がしやすいのも助かっています」。



「青少年のための科学の祭典」では工作体験のブースを出展。小さな子どもたちの補助をしながら、自分で完成させる楽しさを伝えます。